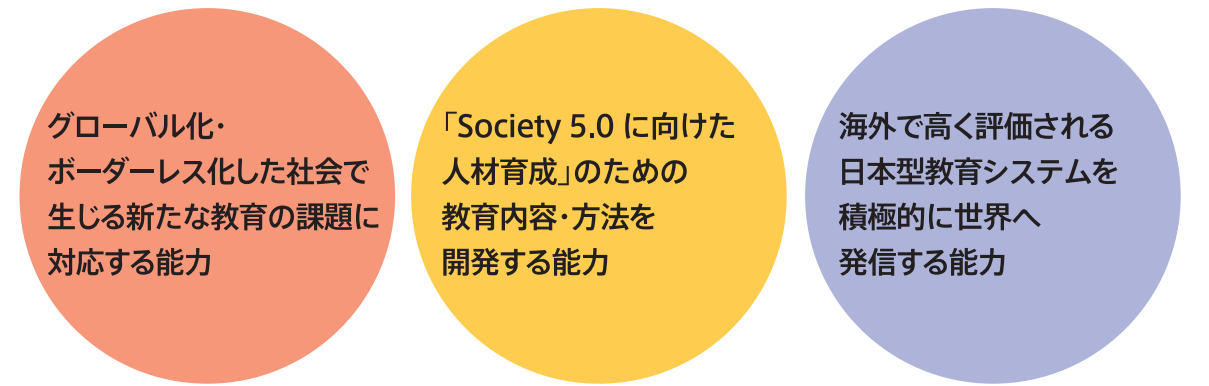
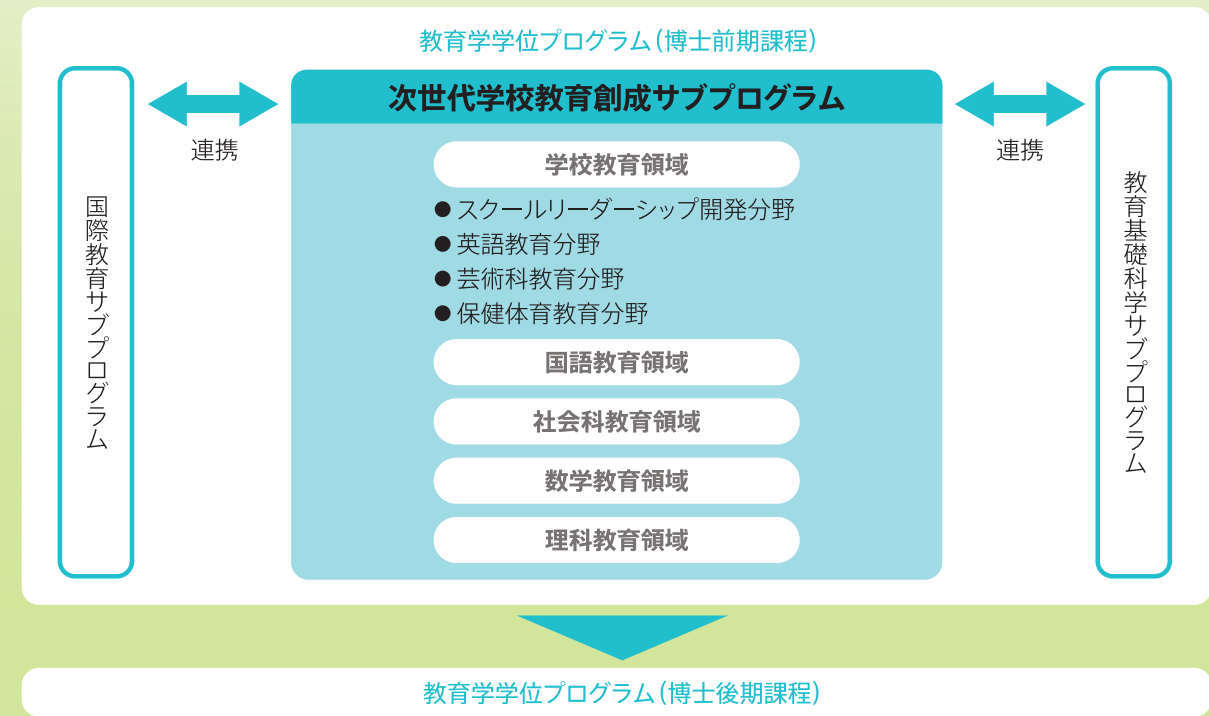


次世代の学校教育をリードする 高度専門職業人の育成

前身の教育研究科(スクールリーダーシップ開発専攻、教科教育専攻)は、高等師範学校の系譜をもち、日本の中等教育の中核を支えてきました。次世代学校教育創成サブプログラムは、この確かな実績を基礎としつつ、次世代の学校教育を見据えた研究・教育拠点として生まれ変わりました。



教育学の理論的内容から教科教育の専門的内容、
グローバルな教育課題まで、幅広い領域をカバー



多彩な授業科目

人間系、人文社会系、数理物質系、生命環境系、体育系、芸術系という6つの系から教員が関わり、各分野の最先端の動向をふまえた指導が行われています。STEAM 教育やカリキュラム・マネジメントなど、次世代の学校に欠かせない教育や経営の実践についても研究することができます。

※科目は一例

基礎科目	専門基礎科目	専門科目
● 教育学理論研究 ● 次世代教育開発研究 ● Theory of International Education	● スクールリーダーシップ論 ● 学校心理学 ● 国際・多文化教育論 ● 国語科リテラシー教育論 ● 日本史特講Ⅰ ● 数学教育カリキュラム論 ● 物理学教育実験 ● 英語教育学習論 ● 芸術科教育特講 a ● 保健体育授業づくり論	● 次世代教育研究Ⅰ～Ⅲ ● 国語教育学研究Ⅰ～Ⅲ ● 地理教育学研究Ⅰ～Ⅲ ● 歴史教育学研究Ⅰ～Ⅲ ● 公民教育学研究Ⅰ～Ⅲ ● 数学教育学研究Ⅰ～Ⅲ ● 理科教育学研究Ⅰ～Ⅲ ● 英語教育学研究Ⅰ～Ⅲ ● 芸術科教育学研究Ⅰ～Ⅲ ● 保健体育教育学研究Ⅰ～Ⅲ

社会人の積極的な受入れ

社会人の再教育への要請が高まっています。本サブプログラムでは、在職のまま大学院の教育を受け、教育研究及び実践上の指導的役割を果たしうる能力を培うことができます。入学試験においても「社会人特別選抜」を実施しており、書類審査と小論文・口述試験のみで受験することができます。また、現職教員を対象とした、修了年限が1年間のプログラムも用意しています。

Q&A

Q 取得できる学位や資格を教えてください。

A 所定の単位を修め、修士論文に合格すると、修士(教育学)が授与されます。資格としては、小学校・中学校・高等学校教員の専修免許状(全教科)、養護教諭専修免許状、栄養教諭専修免許状、学校心理士申請資格などが取得できます。

Q 修了後の進路を教えてください。

A 前身の教育研究科と同様に、中・高等学校を中心とする教員をはじめ、官公庁や一般企業、博士後期課程進学などが期待されています。

Q 旧教育研究科のスクールリーダーシップ開発、英語教育、保健体育教育、芸術科教育の内容を学ぶことはできるのでしょうか。

A これらの専攻・コースは「学校教育領域」として再編されましたが、これまでと同様に学ぶことができます。

Q 教職大学院とはどう異なるのですか。

A 教育実践に関わる諸問題の解決を目指す点は同じですが、学術的なアプローチを重視する点、研究の成果を修士論文としてまとめる点で異なります。文学、社会学、数学などの教科専門の内容の研究もできます。